

杉野一博 選

天窓の三尺四方翳雲

さらりとした表現がいい

松原智津子

名月を拝し心痛修めけり

結論出しすぎではないか

松原智津子

はるばると暑寒別川に鮭の群れ

「に」はいらぬ

山本俊郎

木枯らしヤトレンチコート旅立てり

下五に味わいがある

山本俊郎

らろるてふ庭に菊咲く喫茶店

「てふ」は古くはないか。
「という」の字余りでも

森山圭悦

初秋に旭西高の傘寿会

中七「の」いらぬ

森山圭悦

秋の蝶終りのいのち舞ひにけり

「秋の蝶」と付き過ぎ。「夕べのいのち」

伊東次雄

秋灯を点して消して一人なり

中七が面白い

伊東次雄

雨音のからこらと鳴る白露かな

中七面白い

滝田慶子

曼珠沙華つきぬけてゆくイエスの瞳

中七どちらにかかるのであろう

滝田慶子

林檎むく紅きリボンの抽象画

中七の把握面白い

木宮節子

焼芋や人類は火を発見す

木宮節子

秋の蜂回転扇停止中

取り合わせきまつている

船矢美雪

蔦紅葉車椅子ごと入りけり

中七がいいと思う

船矢美雪

刃物研ぎ一人離れて秋祭

上五の存在感

上澤孝二

ぼろぼろの鮭の尾鰭を見て終う

作者の思い溢れてくる

上澤孝二

坂下る照葉黄葉の脳裡かな

体にしみこむイメージ

杉野一博

木のそばをまたも離れず赤蜻蛉

赤蜻蛉は僕の中いつもこのようだ

杉野一博

北海道民放クラブ